

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2875101566		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	ポートピアシルバーホーム		
所在地	神戸市中央区港島中町5丁目2-3 (電話) 078-304-7733		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(平成20年7月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	6階建ての	~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	77,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	365 円
	夕食	415 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,140 円		

(4) 利用者の概要(7月23日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	77歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人神戸マリナーズ厚生会 神戸海岸病院
---------	-----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、海に囲まれた神戸ポートアイランドの南に位置し、周辺は大学、スポーツセンター、記念ホールなどの施設が立ち並び、最寄の駅から徒歩5分のところにある。6階建ての老人保健施設の1階部分に1ユニットのグループホームがある。併設の老人保健施設は、ショートステイ及び通所のリハビリテーションも受けることができる。入り口付近の花壇には、花はもとより、スイカ、ミニトマト、茄子、きゅうりが植えられ、利用者の楽しみとなっている。介護の面では、利用者の個性を尊重しながら、家庭的で落ち着いた雰囲気なかで、穏やかで安心した生活を送ることができるよう取り組んでいる。今後は、地域との交流を盛んにすると共に、ホームからの積極的な情報発信が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	理念に対する具体的な取り組みが明確になり、その実現に向けて管理者の強いリーダーシップのもと職員と共に取り組んでいる。また、近隣、特に大学との連携が着実に進んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者自身が自己評価を実施し、補足部分や確認が必要なところは現場の職員から聞き取りを行なっている。管理者は、前回に実施した内容や課題等を整理し、今回の自己評価との違いを検討した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議では、2ヵ月ごとの活動内容の報告が主に行われている。運営推進会議の中で、ホームには特技を活かした利用者の作品が多数あることから、ホームに留まらず外部の方にも見てもらうよう提案がなされた。その結果、併設している施設の職員や利用者にも見てもらうところに展示されていた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族への連絡方法として年に2回「しおかぜ」通信を送り、日々の暮らしを報告している。また、家族が訪問した際に利用者の生活状況が分かるように、写真付きの活動記録帳、連絡事項が記載されている用紙がカウンターに置かれている。また、家族からの率直な意見等が提案されるよう、ご意見箱をエントランスホールに設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ホームが市街地や住宅から遠く、オフィス街のため人通りも限られている。一方、大学が多く、近隣の学生が研修のためにホームを訪れる。また、利用者が大学の食堂で食事をしたり、学生と話をする場面がある。近くのふれあいセンターでは、利用者がお茶を飲みながらお喋りをしたり、カラオケをしたりと、とても和やかな雰囲気で、地元の人と交流している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年からホーム独自の理念を明文化し、掲示板に貼っている。特に、なじみの関係を大切にすること、利用者の能力に応じた生活ができるよう支援することを心がけている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員への意識付けや周知徹底を図っている。例えば、理念の根拠や背景についても定期的に会議で話し合ったり、スタッフステーション内の目立つ所に掲示している。また、名刺の裏に理念を書き携行している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の学生が研修のために訪れている。また、利用者が大学の食堂に行き、食事をすることもある。近隣の住民とは団地から離れているため、日常的な付き合いが少ないが、近くのふれあいセンターでは、利用者がお茶を飲みながらお喋りをしたり、カラオケをしたりと、とても和やかな雰囲気です。地元の人と交流している。		事業所は団地から離れているが、事業所が地域から孤立することのないよう、地域活動や地域住民との関わりをより積極的に持つよう取り組まれることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義や役割を第三者評価を受審する前に伝えている。また、評価終了後に評価結果をまとめたり、ファイリングをして整理している。課題は職員会議の時に話し合い、さらに、ケース会議の時に皆で改善策に取り組めるよう努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回開催している運営推進会議では、月ごとの活動内容の報告を行なっている。また、推進会議のメンバーから要望や意見が出た場合には、積極的に事業の反映に努めている。特に、医療ニーズが多いことから医師に参加してもらっている。</p>		<p>事業所と地域との交流促進のためにも、運営推進会議のメンバーに、地域住民の代表に参加していただくなど幅広い参加が期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業運営について何かあれば市町担当者に問い合わせの電話をしている。また、窓口に行き行って相談することもある。</p>		<p>何かあった時の場合に備えて普段からの連絡を密にしておくためにも、研修や行事の参加を呼びかけたり、事業者からの行政に対してのより積極的なアプローチが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への連絡方法として年に2回「しおかぜ」通信を送り、日々の暮らしを報告している。利用料の請求・領収書送付時に預かり金の収支を報告している。また、利用者によっては、預かり金の残高や支出予定を電話で連絡している。家族が訪問した際に利用者の生活状況が分かるように写真付きの活動記録帳、連絡事項が記載されている用紙がカウンターに置かれている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの率直な意見等が提案されるよう、ご意見箱をエントランスホールに設置している。運営に関する具体的な内容は、運営推進会議で家族の代表者と意見交換を行なっている。</p>		<p>日々の生活のなかで、家族、利用者の要望や意見が気兼ねなく話し合えるよう、定期的な面会日を設けたり、早期の家族会の結成などの取り組みが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>可能な限り職員を固定するように心がけている。しかし、やむを得ず異動や離職がある場合には、引継ぎで十分な説明を行なっている。また、新しい職員にも慣れてもらうため、利用者との十分なコミュニケーションが取れる時間帯を設けている。新しい職員はベテラン職員と行動を共にしながら、利用者に関して助言をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、認知症リーダー研修、認知症対応型サービス管理者研修を職員の勤務年数、日程に合わせて受講するように指導している。内部研修では、併設の施設職員とリスクマネジメント、身体拘束、虐待等の研修会を開催している。勤務体制を見ながら参加を促している。		多くの職員の参加を促すためにも、外部研修だけではなく、より身近な場であるグループホーム独自の内部研修の開催が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他のホームを見学しながら情報交換をしている。また、他のホームの管理者にも来てもらうよう心がけている。		市内や区内のグループホームとの学習会や交流を行うことや全国組織の同業者のネットワークへの参加等が期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用契約前に、希望に応じて見学会を実施し、不安感を解消するためレクリエーションに参加してもらっている。利用者や家族が納得するまで電話やFAX等で情報を提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と接する際に、尊敬の心を忘れず、介護する・されるという関係ではなく、手先が器用な利用者から裁縫を教えてもらったり、戦争体験や職業体験談を話してもらうなど共に学び、支えあう関係を築けるよう努力している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話や状況に変化があった場合に、早期に検討会を開いたり、意向を汲み取ることができない利用者に対しては、家族から聞き取りをするなど、一人ひとりの思いや希望を時間をかけて把握するように心がけている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたって、本人や家族の意見や希望を反映させ、スタッフ全員の提案を盛り込ませるように検討会を重ねている。また、個々の介護計画および書類は、ファイル等で細かく整理され、閲覧しやすいよう工夫している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3ヵ月ごとに見直しを行なっている。また、利用者に変化があった時や本人や家族の要望が変わった際には、期間に関係なく介護計画を作成している。</p>		<p>現状に即した介護計画の見直しをさらに充実させるために、モニタリング項目を増やしたり、記述の具体性を持たせるなど、記録用紙の工夫が期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の送迎は家族が行なっているが、ホームの職員が行なう場合がある。また、利用者の希望に応じて遠方の外出支援を行なっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院への緊急連絡体制が整備されている。ほとんどの利用者は近隣の医院医師をかかりつけ医としている。また、協力病院の医師には運営推進会議に参加してもらい、ホーム内の医療体制についても助言や指導を受けている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については、利用者の個々の状況を把握し、契約の際に本人や家族の意向を汲んだかたちで、ホームとして対応を検討している。</p>		<p>ホームで検討している重度化・終末期ケアの対応について引き続きの検討を期待したい。</p>
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>新人研修の際に守秘義務やプライバシーに関する学習をしている。また、管理者やリーダーが現場職員と利用者の言動についても配慮し、プライバシーの確保に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的に一日のスケジュールを決めているが、利用者の主体性やリズム、要望や体調を考慮して、その人らしい暮らしをおくれるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>利用者との食材選びや調理の回数を現状より増やしたいという、グループホームのより高い目標の実現に向けて、引き続き取り組まれることを期待したい。</p>
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		<p>ホーム近くには広場が多く、利用者が進んで外出したくなるような環境作りを行い、さらなる外出支援が期待される。</p>
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>入り口の鍵は夜間以外はかけておらず、日中はドアを開放しているので、とても開放感がある。居室の鍵もかけておらず、窓も開けられない利用者には、希望があれば開けるようにしている。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署と連携して年2回避難訓練を実施している。実際の火災を想定し、消防器具や運搬用具を使って本格的に実践している。</p>		<p>火災対策として、日頃からの検討会や防災マニュアルの整備を進め、地震対策もグループホーム独自の活動が期待される。さらに、実際の災害を想定して近隣の福祉施設、学校等の相互の協力体制の確立が望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量や食事量は記録をもとに栄養士と連携して、対策や傾向を検討している。特に、水分補給の必要な方には、本人の状態に合わせて、数回に分けて実施している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事務所と共有スペースとの仕切りがなく、とても広く感じられ、開放的な場になっている。利用者も事務所に気兼ねなく入ってきて、相談ができるようになっている。玄関やカウンターには、季節感の感じられる花や金魚鉢が置かれている。外部からの雑音は少なく、明るさも適度なものになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内には、馴染みの家具、机、小物が置かれている。また、好きなポスターやチラシなどを貼り、作品を置くなどして居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		

 は、重点項目。